

数学

<全体分析>

試験時間

70分

解答問題数

4題

解答形式

空所補充と答のみ記入する設問（Ⅰ）と、マーク式（Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）の設問を併用。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

本年はⅡの問題が小問集合となり、問題量がやや増加している。問題自体は難化したように見えないが、計算の難しさは増している。

出題の特徴や昨年との変更点

例年数学ⅠAⅡBの範囲から偏りなく出題されているが、今年は整数に関する問題が多く出題された。

その他トピックス

きちんと証明するには手間取るが、答は容易に予想できる設問があった。また、現れる整式の係数が大きく、因数分解に手間どる問題が目についた。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ（i）	指数関数	数学Ⅱ	指数の拡張	易
	積分法	数学Ⅱ	定積分で表された関数	やや易
	整数	数学A	方程式の整数解、範囲をしぼり込むもの	標準
	図形と方程式	数学Ⅱ	多変数で表される量の最大値	難
Ⅱ（i）	整数	数学A	小数第4位の決定	やや難
	ベクトル	数学B	ベクトルの列	やや難
		数列	数学B	漸化式、数学的帰納法
	指数・対数	数学Ⅱ		
（iii）	整数	数学A	1からnまでの整数の最小公倍数と、その変化	標準
（iv）	図形と式	数学Ⅱ	結果として格子点の個数の問題となるが、条件を理 解する部分の難度が高い	やや難
Ⅲ	微分法	数学Ⅱ	接線、三角形の面積の最大値	標準
	積分法		積分による面積計算	
Ⅳ	確率	数学A	条件付き確率（いわゆる原因の確率）の計算	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

数学Ⅱ、数学B、確率、整数に関して様々な問題が偏りなく出題されている。これらの分野で苦手なところは残さないようにしましょう。多くの問題集が取り上げている標準的な問題に取り組み、自分の力で正解を導く練習を重ねると、合格に必要な実力は身につくはずである。

標準的に見える問題でも、他大学の問題と比べて計算量の多い問題、記述式でなく短答式、マーク式の解答形式を生かした問題も出題されているので、過去の出題の検討も重要である。